



北海道立野付牛中学校
北海道立北見中学校
北海道立北見高等学校
北海道立北見北斗高等学校

東京とどの実



5月／芽吹き直前で樹にも強さが



12月／樹氷の花咲く季節



7月／風そよぐ新緑の季節



11月／落葉、ひっそり佇むポプラ

ポプラ

ヤナギ科の落葉高木。ヨーロッパ・西アジア原産。枝は垂直方向に伸び、樹形が円錐形で美しいので街路樹などにする。分類上はヤマナラシ属の属名であるが、一般にセイヨウハコヤナギをはじめ数種の渡来種をこの名で呼ぶ。

■青年の像モデル



母校図書室の端に青年の像（裸の青年等身大着座像）が置いてあるのをご存知だろうか。図書室をご利用になった学生はその存在すら知らない。

この像のモデルは本校27期生の宮井国夫君である。製作者は佐藤猪之助初代校長の胸像の製作者である中野五一先生であります。宮井君が大学3年のとき、4年生が北島監督に卒業記念にラグビーのトロフィを贈ることになり、その製作をトロフィ屋に申し入れたものが中野先生のところへ依頼された。しかし先生がラグビーのことを理解されないで、誰かモデルで来てくれとなり、上級生から宮井行けと世田谷区代沢のアトリエに行き、ラグビー選手の姿で2日間モデルとなった。

帰り際、着替え中、先生から、いい体をしている。と、感動。着替え中、先生から、いい体をしている。と、感動。着替え中、先生から、いい体をしている。と、感動。

この出身「かと話が出、北見です。佐藤猪之助初代校長の胸像を東相内に疎開中に作った。私、中学一年で工作室で作成している姿を見ていましたと申し上げたところ、秋の日展に出品する彫刻のモデルになってほしいと依頼され、夏休み約40日間アトリエに通った。昭和30年春、日展に出品し、それを壊さず、母校に寄贈することになり、四条4丁目小林病院の小林院長先生から北見北斗高校に寄贈し、青年の像として図書室に飾ってあるのです。

後談…モデル代40日間が20,000円（初任給80,000円の時代）大変な金額である。

昼食と10時、3時のオヤツ付であった。宮井君のお母さんが病氣入院で5ヶ月療養費送って来ないため、これで支払ったとのこと。



宮井新会長挨拶
高校時代のことを知っている皆さんに、ラグビー部の悪で大丈夫かと会長の資質が問われそうですが、若返った役員皆さんの新しい感性と創造性をつぶさないよう、ラグビーと同じようにチームプレーに徹して参りますのでよろしくご協力を。



総会決議風景



女性会員の出席が三分の一と目覚しく、三十七期生の斉藤久江さんの乾杯で懇親会が始まりました



校歌斉唱

「東京とどの実会」51周年の集い

2001年6月16日於／グランドアーク半蔵門

恒例の第五十一回の集いは、梅雨期の晴れ間、六月十六日グランドアーク半蔵門にて開催された。

新しい出会いと語らいの場に、母校を同じくする者の心の絆の結びつきに、友人、友情は何にも代えがたく一番の宝物、「友は宝」を実感してくださいと案内したところ、三期生から六十七期生まで幅広い集いとなった。



食事風景



談笑風景



33期生横山君の首頭で応援歌を高らかに



青年の参加も増えています

こんな人も居ます



**庭木・花木・果樹・花の病気その他
何でも診断・手当、園芸教室承ります。**

木更津市・袖ヶ浦市・市原市・千葉市・成田市
「カルチャー樹医講師」
教育委員会認定委託樹医

野口 文雄 (33期)
TEL/FAX 0438-62-9395

- H6年11月1日 庭木の相談をボランティアでカウンセリングしているうちに樹医に深く興味を持ち資格を取得する
- H6年12月16日 読売新聞千葉版の朝刊に『樹医・野口文雄の活躍』として報道され民間・官庁より相談が増える
- H7年2月 小田急グループ110社の月刊社内報に紹介され各社からの樹医学的な様々な相談に乗る
- H7年3月31日 NHKテレビ千葉放送局の生放送で『樹医、緑のお医者様・野口文雄の活躍』というテーマで首都圏に放映される
- H7年8月 (株)ダイヤモンド社のエグゼクティブ8月号に紹介され各地方より寄せられた相談で種々な出会いがある
- H7年10月1日 千葉県袖ヶ浦市発行の広報『そでがうら』で紹介される
- H7年11月11日 週刊現代で全国的に紹介される
- H7年9月1日 千葉7市の教育委員会・生涯学習部よりボランティアでの指導を委託され、講師として樹木に関する相談をうける 袖ヶ浦市からの依頼で、都市計画の中での街路地の弱った樹木をカウンセリング、花を咲かせ、実をつけるまでに回復させる
- H9年1月13日 千葉県庁教育庁・教育委員会のスポンサーによって『樹医・緑のお医者、野口文雄の活躍』を千葉テレビ放送46チャンネルで放映



木更津市中央公民館での木更津市婦人の集い(200名参加)に、「木々と人との出会い」をテーマで講演、緑の木と花についての質問会を行い好評、それを受け新聞にて大々的に報道される

千葉県都市部と木更津市主催の「花と緑のフェスティバル・イン木更津」が、上総アカデミアパークで、3日間行われ、指名委託されたグリーンアドバイザー(緑の相談員)で活躍し好評を受ける

読売新聞朝刊千葉版に、野口邸グリーンガーデンに「ウコンが花つける」の記事が出て、大評判となり千葉県内より管理の仕方や、収穫後の健康食品としての方法等、問い合わせや来訪者で活気づき、今でも静かなブームで賑わっている

新千葉新聞に、樹医野口文雄による「園芸教室」が開催され、地元住民愛好者に花・木・盆栽・果樹・その他を毎週土・日に指導中の記事が出る

市原市及び千葉県庁公園緑地課(都市部)主催の「花と緑のフェスティバルイン市原」が市原市内緑地公園で3日間行われ、グリーンアドバイザーとして県と市より推薦され任命委託を受ける

ちなみに、袖ヶ浦市トチの木、市原市シイの木、千葉市姫シヤラの木、成田市桜(ソメイヨシノ)の木、木更津市キャラの木、君津市コウヤマキの木、柏市イロハモミジの木、診断手当を行い再生。(平成8年3月～平成9年9月)

28期からのメッセージ 『とどの實』発刊の思い出…

昭和28年卒業 和田 淳子(旧姓 杉本)

部活動では文芸部に入学して居りましたので、3年生になると文芸部発行の卒業誌「とどの實」発刊という大仕事が出て居りました。それまでは誌歌を作ったり小説書きのまねごとをしたり、図書室に顔を出したりののきな部生活を送って居りましたが、2学期に入りますと3年生が中心になって少ない部員で手分けして校長先生始め諸先生方、各部の生徒に原稿用紙を持って原稿書きの依頼のお願いから始まりました。それがなかなか困難なことで、先生方や文化部の方は、期日まで何とか協力をお願い出来ました。運動部の回収率が低く日の落ちたグラウンドにたたずんで、練習の終わるのを待ったり、奇襲戦法で、在室の頃を見計らって部屋の戸をいきなり開けると着替えの最中で、大声でどなられたり、遠征の時は足しげく駅まで見送りしたりしてずい分手間がかかりました。時には新聞部の協力を得て試合結果のスコアを記入して



北見神社



昔を偲ぶ料亭「初音」

簡単なコメントをつけてもらってやって穴を埋めたという苦肉の策を取ったことも思い出の一つです。部報と同時に卒業生の言葉、在校生の送る言葉、それに文芸作品の掲載と、ずい分盛りだくさんの内容だったと思います。今回この原稿を書くことを思い立ってから私の記憶を確かめたいこともあって北見の級友にお願いして昭和28年、1953年発行の「とどの實」5号と今年2000年発行のNo.47号の「とどの實」を現北見北斗高校生徒会担当の二瓶伸一先生のご好意で二誌を入手することが出来ました。私共が昭和二十八年に卒業してから、四十七年という年数が立って居り、「とどの實」は「とどの実」となり文芸部発行から生徒会機関紙として発行されるという変化はあるものの「とどの實」の歴史は続いており、今両誌を手許において見比べてみると編集の内容に変化こそあれ、北見北斗高等学校の伝統は脈々と続いているという熱い思いが湧いて参ります。大正11年野付牛中学校として開校して以来80年になろうとしている長い歴史ある伝統校「北見北斗」私共の心の寄りどころでございます。高校生活中思い出に残っていることはたくさんありますが、「とどの實」を故森谷星一先生のご指導と多くの方々を支えられて発刊できたことは忘れられぬ大きな思い出でございます。



旅立ちの思い出…

34期からのメッセージ 『インターハイ』

昭和34年卒業 後藤 京子



卒業して…年、ずい分遠い昔のような気もいたします。それでも毎年八月の高校総合体育大会の時期になると、やはり自分の青春時代をかけて頑張ったこのインターハイを思い出します。

私達の選手時代は、今と違って夜行列車と船が当たり前で、特に三年の時は、開催都市の徳島に二日ばかりでたどり着き、やれやれと思う間もなく、酷い暑さで試合前に体力も気力もすっかり消耗してしまうような気がしたものでした。更に夜になっても北海道と違って暑さが和らぐ、勿論当時私達の宿泊する旅館には、クーラーも無く、朝には寝不足のため普段にも増して頭がどんよりしていたことを思い出します。

街を歩くと、目につくのは水屋さんばかり。そんな状況で迎えた開会式でしたが、式の途中バタバタと倒れる選手が続出する程、それは悲惨なものでした。

団体戦が負け、個人戦も一人二人と減っていき、ベスト8は北海道として私一人が残っていたのですが、それも一回戦から苦戦の連続で、あと一本あと一本と自分に言い聞かせて打っているうちに勝ち上がっていたように思います。

準々決勝では、後に世界選手権で大活躍した関選手と対戦しましたが、一セット目を難なく先取したものの、二セット目に入る

と関選手ピンチが伝わったのか、同選手方のベンチにどっと応援団が増え、忽ち私の弱点が共同で研究され、結局執拗にそこをつかれて敗れてしまいました。

当時私は、自分の弱さを棚に上げ、応援団抜きなら勝っていたと思ったり又大会終了後のランキング七位の評価に、例え一セットとはいえ、関選手からワンポイント取ったのは私だけだったのに、田舎の無名選手だから本来ランキング五位が妥当なのに七位に落とされた…との説に同調したものでした。

それでも北海道としては、久しぶりのランキング入りとかで、皆さんから大変な祝福を戴いたばかりか、北見に帰るなり、NHKからも取材を受け、朝のラジオから、数日後私の“先輩はじめ皆さんのおかげです…”の声 flowed 時は、ちょっと照れながらもあらためて嬉しさがこみあげたものでした。

練習練習の明け暮れ、夏休みも冬休みもなく、そして修学旅行も文化祭もなかったけれど。それが悪コンディションの中での試合で好成績をおさめることが出来た賜物となっていたのです。

その青春をかけて、汗にまみれ練習を頑張り抜いたこと、そしてその過程で得た考え方などが、今を私の精神的な支柱になっており、やはり卓球をやった良かったと、今なお思っております。



昭和33年10月 卓球部
富山国体の北海道代表を独占した3人

物故者

第一回二年卒	岡村芳男	没
第二回二年卒	藤川廣	平成十一年十二月没
第三回八年卒	仲村和雄	平成十三年二月没
第四回十一年卒	倉本賢三	平成九年十一月没
第五回十三年卒	黒沢英六	平成十年七月没
第六回十三年卒	前田宏	平成十一年五月没
第七回十四年卒	喜多村晴男	平成十年九月没
第八回十四年卒	池田寛	平成十一年十一月没
第九回十四年卒	友田安雄	平成十二年三月没
第十回十五年卒	金谷正祐	没
第十一回十五年卒	辰田清治	平成十一年八月没
第十二回十六年卒	竹倉茂	平成十一年十二月没
第十三回十六年卒	川野希典	平成十一年九月没
第十四回十七年卒	田中初男	平成十二年二月没
第十五回十七年卒	中井健五	平成十一年一月没
第十六回二十年卒	梅谷修	平成九年七月没
第十七回二十年卒	岩崎健剛	平成十年二月没
第十八回二十年卒	坂東克浩	平成十一年十一月没
第十九回二十七年卒	山田隆	平成十年没
第二十回二十九年卒	沼田泰和	平成十年十二月没
第二十一回三十一年卒	庭田橋	平成十二年二月没
第二十二回三十二年卒	滝沢修一	平成十二年五月没
第二十三回三十三年卒	榎本香代子	平成十一年十一月没
第二十四回三十三年卒	舟山隆	平成十一年十一月没
第二十五回三十三年卒	土田三好	平成十二年没

編集部 後記

集めた原稿も残り少なくなり、編集も少々苦労をする様になってきております。写真と共に近況をお知らせ下さい。今号は、メインを会長がモデルになった「青年の像」と共にポプラの写真にしました。北見北斗のポプラ並木を思い出していただければ幸いです。第52回の東京とどの実会の総会も6月22日(土)に開催されます。まだ、来たことのない方は初夏の土曜の午後の一時を、来られたことのある方は、1年振りのあの顔を思い出して下さい。(半ちゃん)